

第10回 『田の捕植、竹林整備、畑枝豆・里芋・落花生定植など』

と き 2012年6月2日(土) 9:30 - 16:10

ところ 谷っ戸ん田、直売所裏竹林、尾根の畑

天 気 曇り、少々蒸し暑い陽気

参加者 石田(周、秀)、磯、霧生、久保、坂本、高田(裕、直) (15:30頃まで)、
梅下(早、日菜、浩、裕)、高橋、松本(洋)、松下 計15名(子ども4人含む)

【午前】

- ・ 田植え作業が一段落したため、竹林班と畑班に分かれて作業することになった。畑に定植するため、高田家がサツマイモの蔓(ベニアズマ、鳴門金時、紫芋)を店で購入してから参加。女性と子ども中心に畑班、男たち中心に竹林班に分かれる。

【田んぼと畑班】

- ・ 使用した物・・・ジョウロ・糸・3本鍬(2本)・鍬(2本)・草刈りカマ
- ・ 子どもを含む10名で畑へ。サツマイモの畝作り サツマイモが立派に育っても隠れる位の深さで2列作る。30cm間隔で紅あずま30本、鳴門金時15本、紫芋15本を定植。苗を斜めに10cmくらい入れ土をかけゲンコツで穴を水が溜まるようにあける。ジョウロで水撒きをする。子どもたちが真剣に楽しそうに作業していた。
- ・ 畑の周りの草取りや、畑の半分より反対側の周りを3本鍬で根が残っているところなどならした。子どもがその中からジャガイモを発見し午後のお楽しみへと...

【竹林班】

- ・ 男5人で先週までに伐り倒した未整理の竹を選別・整理しながら、枝葉のついた竹を中心にチップパーで粉碎作業。直売所裏の竹林としては今シーズン最後の作業なので、新たな竹の倒伐は極力避けた。
- ・ 道具はチェーンソー2台と鋸とチップパー、そして耳栓と安全めがね。
- ・ 傾斜地に転がった竹の稈は滑り落ちやすいので、斜面に対し出来るだけ横方向に積み上げて杭に固定する共に、嵩張る枝葉のついた竹の先端部をチップパーで粉碎。
- ・ チップパーが空回りする時に中を覗くと、砕けた竹の破片が、チップパーの回転刃の軸方向に転がって空転しており、投入する竹稈と刃の噛み合わせを邪魔するので、小まめに取り除く必要がある。また、竹の投入は無暗に押し込まず、破碎チップの噴射状況を確認しながら加減することが使用上のポイントのようだ。

【お昼】谷っ戸ん田に戻り、全員で昼食をとる。

【午後】一度、全員で畑の様子を見に行った後、また別れて作業を続けた。

【田んぼと畑班】

- ・ 高田家の提供でとうもろこし(ピーター610)・落花生・枝豆(湯上り娘)の種まき
- ・ サツマイモの隣に2列5cm位の高さの畝を平らにし、24ヶ所穴をあけてウモロコシの種を2個ずつ入れ土をかぶせる。スイカと反対側に落花生と枝豆の種まき。糸を用い両側にそれぞれ34ヶ所穴をあけ手前に落花生を2個ずつ、奥に枝豆3個ずつ種をいれる。
- ・ テツさんからサトイモやるなら使ってと申し出があり、種イモ80個を提供して下さり有り難くいただく事に。畝をつくりユウジさんの足跡を頼りに種イモを置いていく(ちょうど30cm)。土をかぶせ定植終了。作った畝と種イモの数がぴったりで皆で喜ぶ!
- ・ 子どもたちはジャガイモを植える為に穴掘りに夢中になりました。出てくるかわかりませんが

でていきたらラッキーかな??穴掘りの後は、ふかふかの土の上でかけっこ...気持ち良さそうです。草刈りもがんばりました。

- ・ スイカの風よけ虫よけをビニール・竹を用いて行燈仕立てで作る。(もっと早い時期にやったほうがいいみたいです)
- ・ 田んぼ 淵の周りに補植をする。洋子さん・坂本さんで作業し・残りは処分。
- ・ 15時半頃終了し片づける。

【竹林班】

- ・ 5人で、斜面に残った竹をひたすら整理した。
- ・ 15時半頃には、斜面もスッキリ片付き、手入れを済ませた満足感を感じた。
- ・ 本日で竹林作業を終了する予定なので、来年の作業量を把握するため、残された竹林に入って中を観察した。枯れた竹が多く乱立し、まだまだ相当の作業量が必要であることを痛感した。尾根沿いの竹林の林床がきれいに片付いていて皆で感心した。
- ・ 残された竹林の幅はおよそ30m前後なので、来冬は3,000~4,000本の竹の倒伐する必要がある。
- ・ テツさんに連絡がつかないため、チップパーをブルーシートで囲ってから、谷っ戸ん田に戻った。
- ・ 残ったメンバーで作業内容の確認を行った後、16時過ぎに解散となった。

(記録：松下・梅下)